

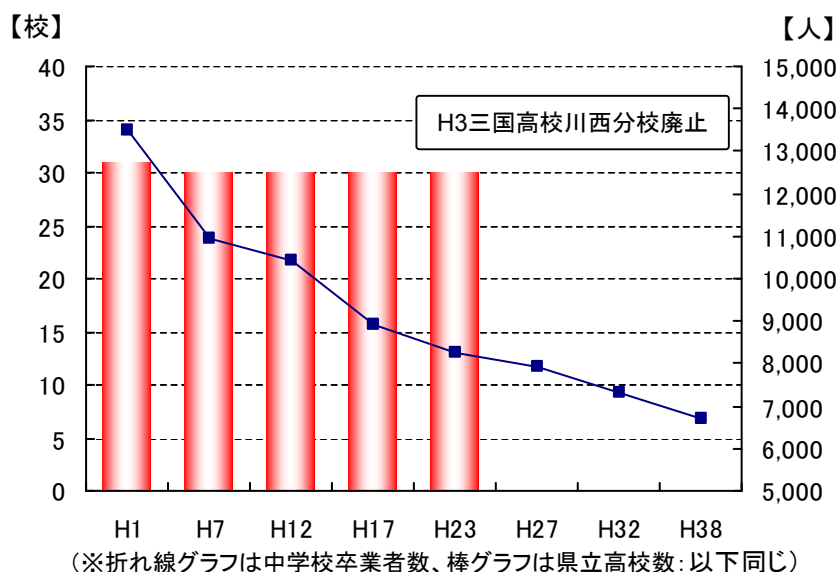
I 本県高校教育を取り巻く現状と課題

1 中学校卒業生数の減少

本県の中学校卒業生数は、平成元年3月の13,483人をピークとして減少を続け、平成23年に生まれた子どもたちが高校に入学する平成38年には6,721人になり、ピーク時の約半数にまで減少することが見込まれている。

平成20年10月の福井県高等学校教育問題協議会（高問協）答申の趣旨を踏まえ、平成21年3月に策定した「県立高等学校再編整備計画（以下、「再編整備計画」という。）」においては、県立高校の適正規模を1学年4学級～8学級としており、今後、全ての県立高校において、適正規模を確保し、生徒が互いに切磋琢磨しながら成長できる環境を整える必要がある。

【県内中学校卒業生数と県立高校(全日制)数の推移(見込み含む)】



2 職業系専門学科の在り方

職業系専門学科においては、各専門分野の基礎的な知識・技能の習得、将来の社会人として望ましい勤労観・職業観の育成に加え、現代の社会や生徒の多様なニーズを的確にとらえた教育体制の整備が求められている。

また、科学技術の進展や産業構造の変化に伴い、社会が求める知識・技能は日進月歩しており、こうした流れに的確に対応するため、より高度で実践的な専門教育が必要となってきた。

さらに、地元の産業を担い、地域に根ざして活躍する人材の育成を図るため、県内各地区の特色を生かした教育を推進することが重要である。

このため、再編整備計画においては、

- ① 複数の異なる専門学科を持つ総合産業高校の設置
- ② ひとつの専門分野に特化した拠点校の設置
- ③ 本県の特色を生かした新しい学科の設置

を中心とした職業系専門学科の再編整備を進めることとしている。

3 定時制・通信制課程の在り方

定時制・通信制課程においては、従来からの「働きながら学ぶ」生徒が減少し、不登校経験者や全日制高校からの転入・編入者など、様々な課題を抱える生徒が増加している。

このため、再編整備計画においては、

- ① 従来の昼間二部制（就学と就労を午前と午後に1週間交替で行う体制）の見直し
- ② 単位制・二学期制の導入
- ③ 夜間制から昼間制への移行
- ④ 教育内容や教育相談体制の充実

を基本として、定時制・通信制課程の見直しを進めることとしている。

Ⅱ 県立高等学校再編整備 第1次実施計画の推進

再編整備計画においては、平成20年10月の「福井県高等学校教育問題協議会答申」の趣旨を踏まえ、地区の実情に応じた段階的な再編整備方針を掲げており、まずは、第1次実施計画として、県内で最も生徒数の減少が著しい奥越地区の全日制高校の再編整備ならびに定時制・通信制課程の見直しを行うこととした。

1 奥越地区の再編整備

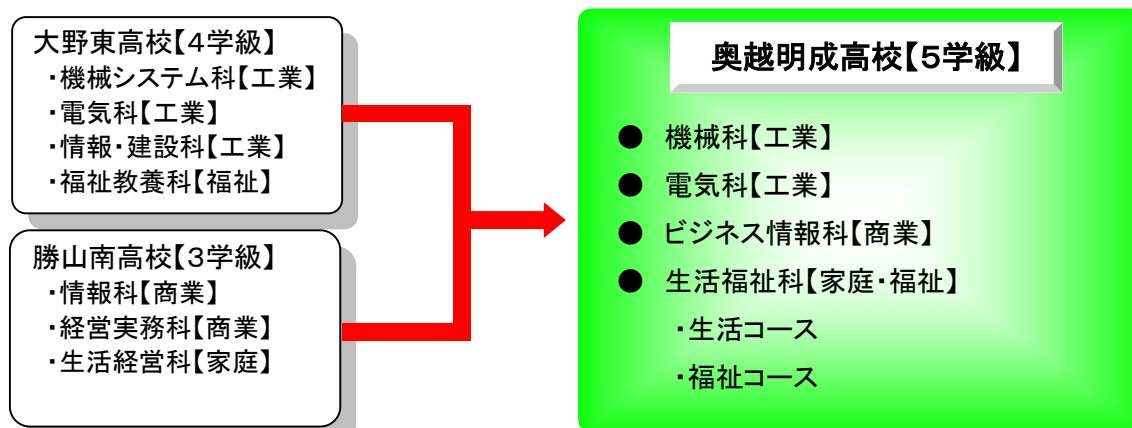
奥越地区については、大野東高校と勝山南高校を再編統合し、大野東高校を校地として総合産業高校を設置することとした。なお、勝山南高校の校地や体育館等を活用し、新たに特別支援学校を設置することとした。

奥越地区の再編整備に当たっては、平成21年8月に「奥越地区魅力ある県立高校づくり検討会議」を設置し、地区の県立高校全体の魅力向上策等について議論を行い、平成21年12月に検討結果の報告がなされた。

新たに設置する総合産業高校については、平成22年2月に、大野東・勝山南両校による「奥越新高校準備委員会」を設置し、開校に向けての具体的準備を開始した。

同委員会を中心に、工業、商業、家庭、福祉の4つの専門学科を基本に、各分野が協働した特色ある学校づくりを目指し、学科やカリキュラム編成作業を進め、平成22年11月には新高校の名称を「奥越明成高等学校」に決定した。

【奥越地区の県立高校再編整備の姿】



同校のカリキュラム編成においては、学科の枠を越えて科目を選択できる「総合選択制」を導入し、生徒の多様な学習ニーズに対応するとともに、地区の産業や観光など、奥越の魅力をPRする学校独自の科目や、地区の要望を踏まえ、測量などの土木・建設に関する科目も開設することとした。

平成23年4月には151人の新入生を迎え、本県初の高校再編による総合産業高校、地区の産業界の将来を担う人材育成拠点としての第一歩を踏み出したところである。

【奥越明成高校開校までの主な経緯】

年度	主な経緯
20	3月 県立高等学校再編整備計画決定
21	8月 「奥越地区魅力ある県立高校づくり検討会議」設置、地区の高校教育の魅力ある在り方について検討(～12月) 2月 大野東・勝山南両校による「奥越新高校準備委員会」を設置(以降、毎月開催)
22	4月 地区中学校長会、中学校関係者への説明、校名の公募(～6月) 5月 中学校進路説明会(～6月)、再編対象校PTA説明会 8月 体験入学(新高校説明、体験学習を実施) 10月 校章の公募(～11月)、地区中学校進路説明会(～11月) 11月 奥越明成高等学校設置(福井県立学校設置条例改正) 1月 校章・モニュメントの公表、推薦入学者選抜 3月 一般入学者選抜
23	4月 開校式・入学式

2 定時制・通信制課程の見直し

県立高校の定時制・通信制課程については、平成22年度から、昼間二部制の見直しとともに、単位制・二学期制や後期からの編入学制度の導入を行い、生徒が自分のペースや興味・関心に合わせて学習を進め、3年間で卒業することができる体制に改めた。

さらに、生徒が抱える様々な課題に対応するため、スクールカウンセラーとスクールソーシャルワーカーを新たに配置し、教育相談体制の充実を図ったところである。

こうした見直しを反映して、特に、平成22年度以降の定時制課程の進学者数は増加しており、これからも、生徒の多様な学習ニーズや課題に的確に対応できる教育環境整備に努めていく。

【県立高校定時制課程への進学者数の推移】

区分	21年度	22年度	23年度
県立高校定時制課程への進学者数	190	247	255
対21年度比(%)		130.0	134.2

※21～22年度は進路実態調査、23年度は4月の入学者数による。

Ⅲ 県立高等学校再編整備 第2次実施計画（坂井地区・若狭地区）

1 計画の趣旨

この計画では、坂井地区（あわら市、坂井市）、若狭地区（小浜市、高浜町、おおい町、旧上中町）における職業系専門学科を中心とした全日制県立高校の再編整備の方向性について定める。

2 計画の期間

計画の期間は、平成24年度から26年度までの3年間とする。

3 計画の内容

（1）課題と対応

対象地区の県立高校においては、以下の共通の課題が存在しており、再編整備に当たっては、こうした課題に的確に対応し、県立高校の教育環境の充実を図ることを第一に進めていく。

各地区の共通課題

- ① 今後の高校入学者数の減少を見通した適正な学校配置と規模の確保
- ② 社会や生徒の多様なニーズに的確に対応した職業教育の推進
- ③ 近年の普通科系学科への進学志向の高まりに対応

【参 考】

・ 中学校卒業生数の推移（見込み含む）

※減少率は、対H元年比

年	坂井地区		若狭地区	
	卒業生数(人)	減少率(%)	卒業生数(人)	減少率(%)
H 1	1, 806	—	1, 004	—
H 2 3	1, 313	▲27.3	668	▲33.5
H 2 8	1, 250	▲30.8	580	▲42.2
H 3 8	977	▲45.9	521	▲48.1

・ 平成23年度の学級数、募集定員、入学者数（単位：人）

【坂井地区】

No.	学校名	大学科	学級数	募集定員	入学者数
1	金津	普通	6	194	194
		商業	2	72	71
2	丸岡	普通	4	156	156
		家庭	1	32	32
3	三国	普通	5	187	186
		家庭	1	32	32
4	坂井農業	農業	3	93	93
5	春江工業	工業	4	144	143

【若狭地区】

No.	学校名	大学科	学級数	募集定員	入学者数
1	若狭	普通	5	195	195
		理数	1	36	36
		商業	2	72	72
2	若狭東	普通	2	60	54
		農業	2	66	66
		工業	2	60	60
3	小浜水産	水産	3	90	75

・ 農業科・水産科卒業生の就職状況（単位：人）

学校名	卒業年	業 種						
		農林 漁業	建設	製造	卸小売	飲食	金融 保険	サー ビス
坂井農業高校 【農業科】	H21	0	1	32	8	1	3	1
	H22	0	4	18	6	4	0	8
	H23	0	3	26	4	3	0	5
若狭東高校 【農業科】	H21	1	3	16	3	2	1	13
	H22	0	1	13	3	0	0	21
	H23	1	6	13	6	2	0	7
小浜水産高校 【水産科】	H21	0	7	14	4	1	0	10
	H22	2	5	13	1	2	1	10
	H23	1	2	16	3	3	1	4

・ 普通科系学科と職業系専門学科の定員割合（平成24年度募集定員）

地 区		学科別定員割合(%)		
		普通	職業	総合
嶺北	福井	66.3 (69.3)	33.7 (30.7)	—
	坂井	61.6	38.4	
	奥 越	70.1	29.9	—
	丹 南	66.1	20.8	13.1
	嶺北	65.8 (67.6)	30.3 (29.6)	3.9 (2.8)
嶺南	二 州	51.7 (65.1)	48.3 (34.9)	—
	若 狭	51.3	48.7	—
	嶺南	51.5 (59.5)	48.5 (40.5)	—
合 計		62.9 (66.1)	34.0 (31.5)	3.1 (2.3)

※()は、地区内の私立高校の定員を含めた数字。

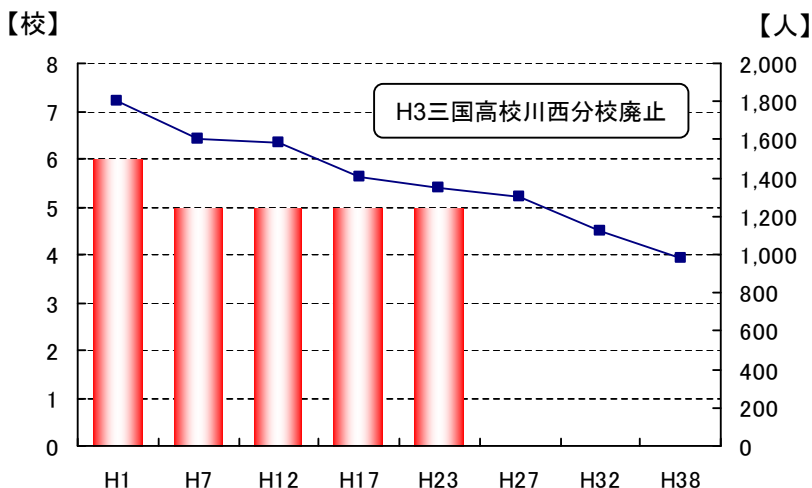
(2) 各対象地区における再編整備方針

① 坂井地区（あわら市、坂井市）

◆ 現状と課題

平成元年3月における中学校卒業生数は1,806人であったが、平成23年には1,313人まで減少（約27%減）した。また、平成38年には、977人まで減少（約46%減）する見込みとなっている。

【坂井地区の中学校卒業生数と県立高校(全日制)数の推移(見込み含む)】



全日制の県立高校は5校設置されており、学校規模（平成23年度の1年次：以下同じ）をみると、1学年8学級規模が1校（金津高校）、6学級規模が1校（三国高校）、4学級規模が2校（丸岡高校、春江工業高校）、3学級規模が1校（坂井農業高校）となっている。

生徒数については、平成27年頃に減少傾向が大きくなることが予想されることから、高校の適正規模の確保を図る必要がある。また、福井地区の高校等への進学者が多くなっており（特に普通科）、地区内の県立高校の更なる魅力づくりを図るとともに、生徒の普通科への高い進学希望に応えるため、他の地区と比べて低くなっている普通科の定員割合を引き上げる必要がある。

坂井農業高校においては、生徒数の減少に伴う学校の小規模化が進んでおり、また近年、卒業生の農業への就職者はなく、求人も少ないことから、学習内容と進路とのミスマッチが生じており、地域の産業界や生徒の現在のニーズに対応した教育体制づくりが必要である。

【坂井地区の中学校卒業生の主な進学地(H23.3卒)】(単位:人)

坂井地区	地区外(518人)		
	福井地区		其他地区
	普通科	職業科	
795	325	125	68

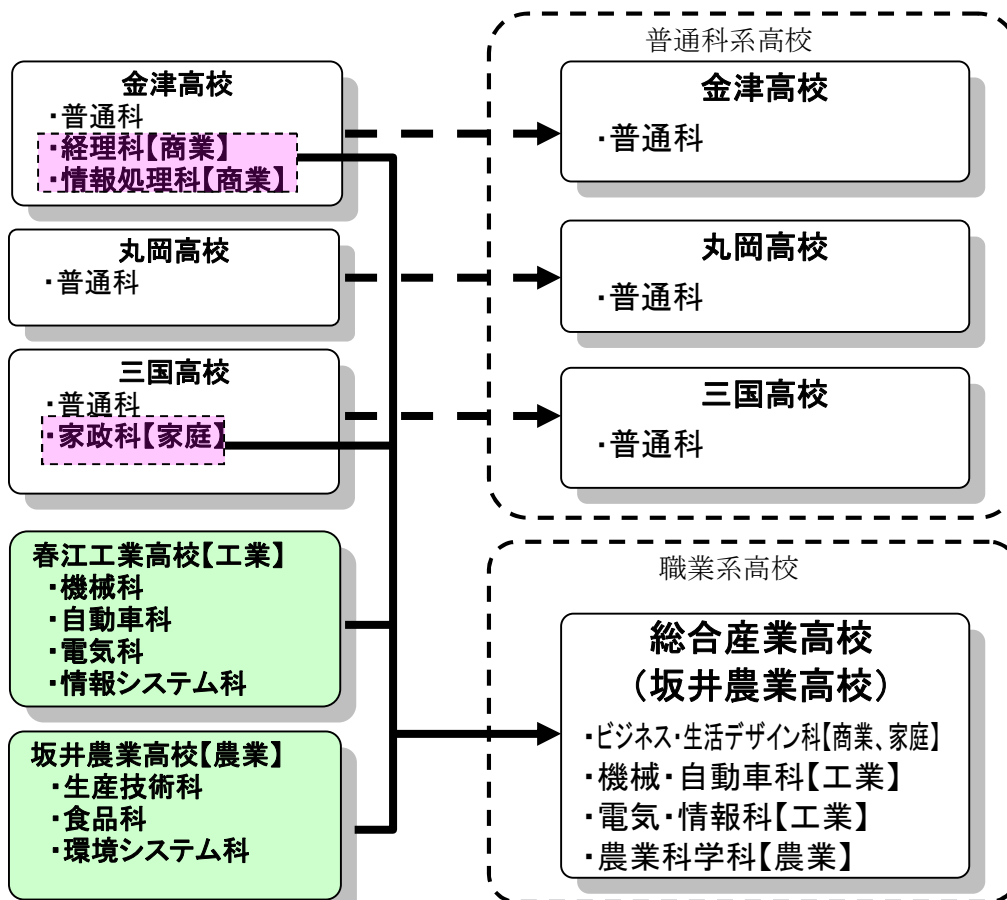
【坂井農業高校の定員・学級数の推移】

年度	定員(学級数)	備考
S62	200(5)	
H 4	160(4)	5学科⇒4学科
H 9	120(3)	4学科⇒3学科
H19	90(3)	
H20	93(3)	
H21	93(3)	
H22	93(3)	
H23	93(3)	

◆ 再編整備方針

- 坂井農業高校、春江工業高校、金津高校商業科、三国高校家庭科を統合再編し、総合産業高校を新たに設置する。校地は、敷地の規模や農業実習施設である山室農場への移動負担、生徒の通学の利便性等を考慮し、坂井農業高校とする。
- 金津高校、三国高校、丸岡高校については、地域の普通科単独校として、進学体制を強化する。また、普通科の定員割合を引き上げる。
- 春江工業高校の校舎・敷地等については、当面、春江工業高校の在校生や総合産業高校の教育施設として活用する。
- 総合産業高校は、必要な施設・設備の整備に要する期間等を見据え、平成26年度を目途に開校するものとする。

＜坂井地区における再編整備のイメージ＞



※総合産業高校の学科名は仮称

◆ 普通科系高校の特色

- 金津高校、丸岡高校、三国高校については、進路別・選択教科別クラス編成や専任教諭の配置を進めるとともに、中高一貫教育の推進や特別進学コースの強化などにより難関校受験にも対応できる学力を育成する。
- 金津高校において情報・経営など商業系大学への進学コースの設置を検討し、より幅広い進学ニーズに対応する。
- その他の普通科系高校においても、学校の魅力を高めるため、地域の特色を生かした科目を独自に設定することを検討する。

◆ 総合産業高校の特色

- 農業、工業、商業、家庭の4つの専門学科を基本に、様々な産業に関する学習を行うことができる教育体制を整備する。また、学校規模を拡大することにより、部活動や学校行事などを充実し、学校の魅力を高める。
- 地元の企業、事業者と連携した実践教育やそれぞれの分野における資格取得の推進など、職業教育カリキュラムを充実し、地域の産業界のニーズに応えられる産業人材を育成する。
- 商業、家庭に関する学科として「ビジネス・生活デザイン科」(仮称)を設置する。商業分野については、簿記や商品流通、語学、情報処理などの基礎的知識・技術の習得をはじめ、専門学校等との連携を強化し、専門的な商業教育を展開する。さらに、地域の産業・観光を幅広く学習するなど、より地域とのかかわりを重視した商業教育を展開する。
- 家庭分野については、暮らしに関する幅広い知識・技術を習得するとともに、本県産業に関わりの深いデザインやファッション、情報機器の活用等を学習し、服飾、インテリア、商品企画などの分野で広く活躍できる人材を育成する。
- 工業科は「機械・自動車科」、「電気・情報科」(仮称)を設置し、機械、自動車、電気、情報の工業分野の基礎的知識・技術の習得をはじめ、地域のものづくり企業やテクノポート福井立地企業、工業技術センター等と連携した実践的で最先端の工業教育を展開する。
- 農業科は「農業科学科」(仮称)を設置し、農業分野の基礎的知識・技術の習得をはじめ、地域の農家や研究機関等と連携し、実践的な栽培技術やバイオテクノロジー等を取り入れた先進的な農業技術の習得を目指す。

また、地域の農業経営体等の協力も得ながら、地元農産物の加工から流通・販売までを総合的に学習し経営感覚を養うなど、農業を基本としながら広く食に関連した業種で活躍できる幅広い人づくりをめざし、新しい農業教育を展開する。

- ・ 総合選択制の導入により、生徒の興味・関心に応じた多様な科目を提供し、進学を含む幅広い進路ニーズに対応する。
- ・ あわら市山室にある実習農場を学校農場と位置づけ、収穫から商品企画、加工、PR、販売まで、学科を横断した実践的な教育を展開するほか、農業体験を通じた人間形成や自然環境学習の場として、全生徒で活用する。

＜再編整備後の新体制の姿＞

【現行：平成24年度】総定員数：888名

No.	高校名	学科名	1学年当たりの学級数	1学年当たりの定員数	備考
1	金津高校(266)	普通科	6	194	商業科
		経理科	1	36	
		情報処理科	1	36	
2	丸岡高校(163)	普通科	5	163	
3	三国高校(222)	普通科	5	190	家庭科
		家政科	1	32	
4	坂井農業高校(93)	生産技術科	1	31	農業科
		食品科	1	31	
		環境システム科	1	31	
5	春江工業高校(144)	機械科	1	36	工業科
		自動車科	1	36	
		電気科	1	36	
		情報システム科	1	36	



【再編後：平成26年度】総定員（見込）数：870名

No.	高校名	学科名	1学年当たりの学級数	1学年当たりの定員数	備考
1	金津高校(220)	普通科	7	220	
2	丸岡高校(170)	普通科	5	170	
3	三国高校(200)	普通科	6	200	
4	総合産業高校(280) 【校地：坂井農業高校】	ビジネス・生活デザイン科	2	70	商業科 家庭科
		機械・自動車科	2	70	工業科
		電気・情報科	2	70	
		農業科学科	2	70	農業科

- ※ 総合産業高校の学科名は全て仮称
- ※ 再編後の総定員（見込）数は、地区の中学校卒業見込数から推計した数。
- ※ 学級数、定員数については仮の数字。生徒の志望動向等によって、変更する。

② 若狭地区（小浜市、高浜町、おおい町、旧上中町）

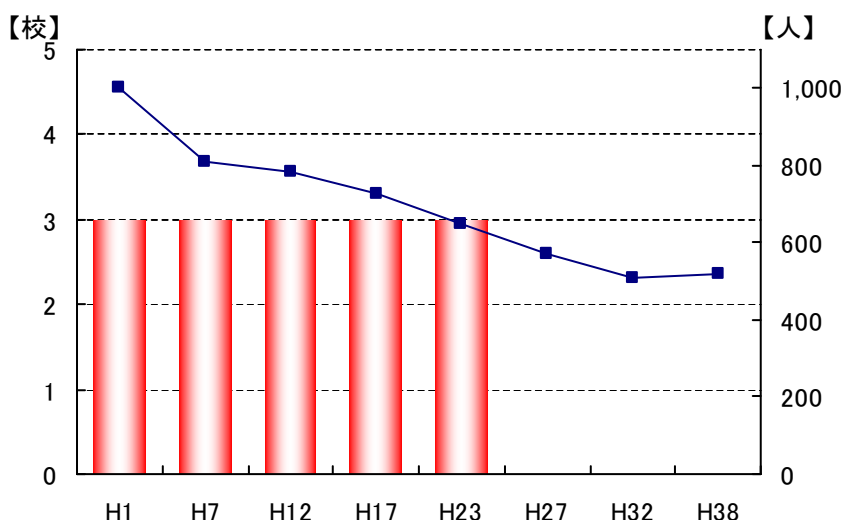
◆ 現状と課題

中学校卒業生数は、平成元年3月の1,004人から、平成23年には668人まで減少（約33%減）した。また、平成38年には521人まで減少（約48%減）する見込みとなっている。

全日制の県立高校は3校設置されており、学校規模をみると、1学年8学級規模が1校（若狭高校）、6学級規模が1校（若狭東高校）、3学級規模が1校（小浜水産高校）となっている。

今後も、生徒数の減少が見込まれることから、高校の適正規模の確保を図る必要がある。

【若狭地区の中学校卒業生数と県立高校(全日制)数の推移(見込み含む)】



また、これまで、生徒数の減少に普通科の定員数を削減することで対応してきたため、普通科系学科と職業系専門学科の定員割合がほぼ1：1と、他の地区に比べて職業系学科の割合が非常に高くなっている。

今後も現在の体制を維持することを前提として、普通科系学科の定員数の削減を続けると、平成38年頃には、普通科系学科の定員割合は約40%まで低下することが予想されることから、生徒の普通科への高い進学希望に応えるため、早急に学校体制を見直し、普通科の定員割合を引き上げる必要がある。

また、若狭東高校農業科（産業技術科、生活科学科）および小浜水産高校においては、近年、卒業生の農林漁業への就職者は極めて少なく、学習内容と進路とのミスマッチが生じており、地域の産業界や生徒の現在のニーズに対応した教育体制づくりが必要である。

さらに、小浜水産高校においては、近年、志望者数や入学者数が募集定員に満たない状況が続き、小規模化が進んでいる。また、専攻科についても、毎年10名程度の募集に対して、入学者は1～4名程度と少なくなっている。

小浜水産高校においては、教員数の確保や生徒への教育効果、学校の活力維持の観点から考慮すると、今後も生徒数の減少に定員や学科数の削減で対応することは困難である。

こうした中においても、本県唯一の水産・海洋教育を行う場の確保は重要であり、再編整備の中で、若狭地域の特色ある食文化や、県立大学海洋生物資源学部、県栽培漁業センター等各種研究機関が近接する立地条件を生かし、魅力ある海洋・水産教育の展開を図る必要がある。

【小浜水産高校の定員、入学者数の推移】

1 本科

年度	H21	H22	H23
志望者数	47	48	43
募集定員	90	90	90
入学者数	79	77	75

2 専攻科

年度	H21	H22	H23
募集定員	約10	約10	約10
入学者数	1	4	4

※志望者数は、進路志望調査結果による(前年9月実施)

【小浜水産高校の生徒数の推移(人)】

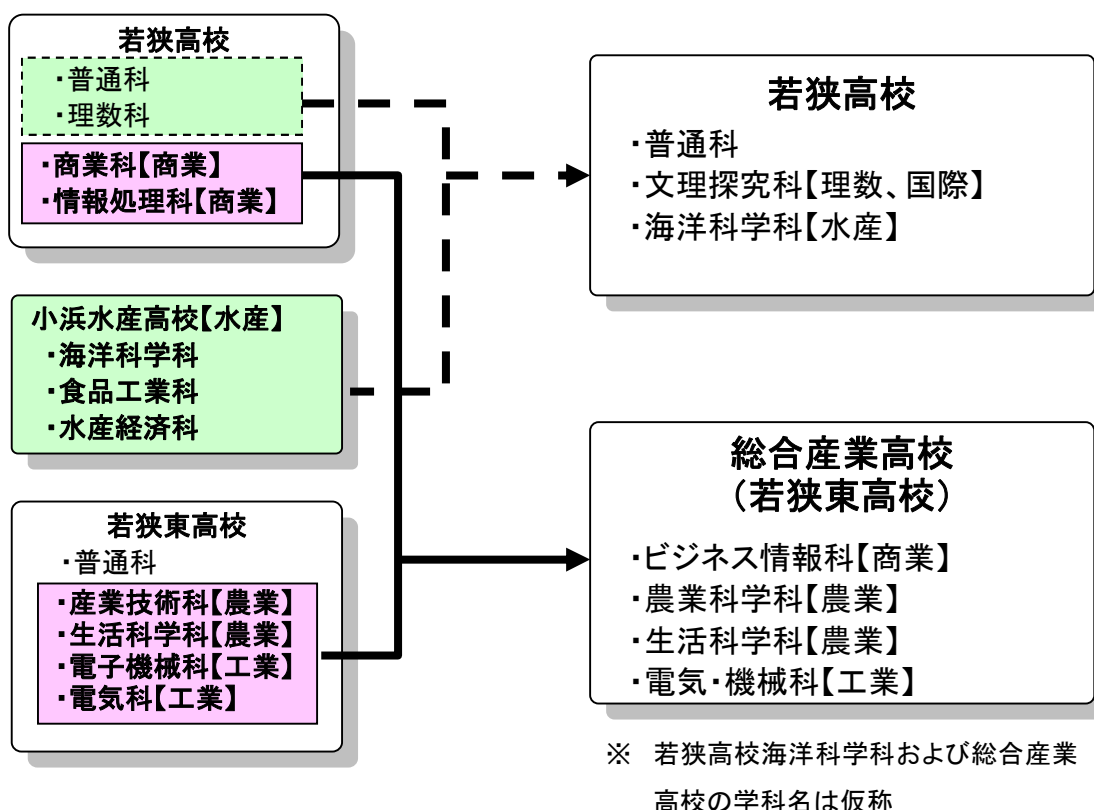
年度	生徒数 (1～3年生)
H19	219
H20	218
H21	220
H22	211
H23	205

◆ 再編整備方針

- ・ 小浜水産高校を若狭高校に統合し、新たに「海洋科学科」(仮称)を設置する。なお、小浜水産高校専攻科は廃止する。
- ・ 若狭東高校農業科、工業科と若狭高校商業科を統合再編し、若狭東高校を母体とした総合産業高校を設置する。
- ・ 普通科系学科については、若狭東高校の普通科を廃止し、若狭高校に集約する。
- ・ 小浜水産高校の敷地・校舎等については、新たなカリキュラムに基づく校舎・施設等の利用計画を踏まえた上で、引き続き水産教育に活用する。

- ・ 大型実習船については廃止することとし、今後のカリキュラム検討を踏まえ、他機関等との共同運航などを検討していく。
- ・ 総合産業高校および若狭高校海洋科学科（仮称）は、平成25年度を目途に開校・開科するものとする。

＜若狭地区における再編整備のイメージ＞



◆ 若狭高校の特色

- ・ 普通科においては、進路別・選択教科別クラス編成や専任教諭の配置等、個々の進学志望に対応したきめ細かな指導を行うとともに、情報・経営等、商業系大学への進学コースの設置を検討し、より幅広い進路ニーズに対応する。
- ・ 平成24年度から文理探究科を設置し、理系文系それぞれの難関大学への進学対応を強化する。
- ・ スーパーサイエンスハイスクール（SSH）を活用した学校設定教科「探究科学」の設定や国際性育成プログラムの実践により、国際的に活躍する理数系人材や科学技術に関わる政策立案等に寄与する文科系人材の育成を目指す。

- ・ 水産科については「海洋科学科」（仮称）を設置し、県立大学海洋生物資源学部との連携による授業や課題研究など、魅力的で質の高い海洋・水産教育を展開する。また、普通科教育を重視し、海洋・水産系、農学系など、自然科学系の大学進学に対応。
- ・ 水産分野のみならず地域の様々な業界で広く活躍できる人材を育成するため、地域の事業者等と連携して水産物の貯蔵、加工、流通、販売まで幅広く学習できる実践教育を展開する。また、海洋資源や船舶に関する知識・技術の習得、資格取得を促進する。

◆ 総合産業高校の特色

- ・ 商業、工業、農業の3つの専門学科を基本に、様々な産業に関する学習ができる教育体制を整備する。
- ・ 地域の企業、事業者と連携した実践教育やそれぞれの分野における資格取得の推進など、職業教育カリキュラムを充実し、地域の産業界のニーズに応えられる産業人材を育成する。
- ・ 商業科は「ビジネス情報科」（仮称）を設置し、簿記や商品流通、語学、情報処理など基本的なビジネススキルをはじめ、若狭の産業や観光についても深く学習し、地域に根差した商業教育を展開する。
- ・ 農業科は「農業科学科」（仮称）および「生活科学科」（仮称）を設置する。
- ・ 「農業科学科」（仮称）では、地域の事業者や研究機関等との連携により、実践的で先進的な農業技術の習得、若狭の特産物の加工から商品開発・販売まで総合的に学習し、経営感覚を養うための実践教育を行う。また、地域の開発・保全に関する知識・技術の習得、資格の取得を促進する。
- ・ 「生活科学科」（仮称）では、介護・保育などの福祉分野をはじめ、暮らしに関する幅広い知識・技術を習得するとともに、若狭の伝統的な食文化の継承や創造を担う人材育成をめざし、食に関する幅広い教育を行う。
- ・ 工業科は「電気・機械科」（仮称）を設置し、電気・機械分野における基礎的な知識・技術の習得とともに、さまざまな資格取得に向けた専門教育や、地域の企業等と連携した実践的な教育を展開する。
- ・ 総合選択制の導入により、生徒の興味・関心に応じた多様な科目を提供し、進学を含む幅広い進路ニーズに対応する。

＜再編整備後の新体制の姿＞

【現 行：平成24年度】総定員数：567名

No.	高校名	学科名	1学年当たりの学級数	1学年当たりの定員数	備考
1	若狭高校(293)	普通科	5	181	
		文理探究科	2	50	
		商業科	1	31	商業科
		情報処理科	1	31	
2	若狭東高校(184)	普通科	2	60	
		産業技術科	1	32	農業科
		生活科学科	1	32	
		電子機械科	1	30	工業科
		電気科	1	30	
3	小浜水産高校(90)	海洋科学科	1	30	水産科
		食品工業科	1	30	
		水産経済科	1	30	



【再編後：平成25年度】総定員（見込）数：500名

No.	高校名	学科名	1学年当たりの学級数	1学年当たりの定員数	備考
1	若狭高校(320)	普通科	6	220	
		文理探究科	2	50	
		海洋科学科	2	50	水産科
2	総合産業高校(180) 【校地：若狭東高校】	ビジネス情報科	2	60	商業科
		農業科学科	1	30	農業科
		生活科学科	1	30	
		電気・機械科	2	60	工業科

- ※ 若狭高校海洋科学科および総合産業高校の学科名は仮称
- ※ 再編後の総定員（見込）数は、地区の中学校卒業見込数から推計した数。
- ※ 学級数、定員数については仮の数字。生徒の志望動向等によって、変更する。

(3) 再編整備の進め方

- ・ 再編整備に当たっては、対象高校、学科の募集停止と同時に新高校・新学科の募集を行う。なお、対象高校の在校生については、原則として、卒業まで入学した学校の校舎等において学習を行う。
- ・ 各地区において、再編対象校の教員を中心とした準備委員会を設置し、地元産業界やPTA等からの意見をいただきながら、学科・コース・カリキュラムの具体的内容をはじめ、校名・校章等の決定、入学者選抜等の開校準備を進める。
- ・ 開校準備の進捗状況については、準備委員会のホームページへの掲載や説明会の開催等により、随時、中学校関係者や保護者等に周知を図る。
- ・ 再編対象校の施設・設備に関しては、カリキュラム等の内容や検討の進捗状況を踏まえ、計画的に整備するとともに、使用しなくなる施設等については、有効な利用方法等を検討する。

(4) 今後のスケジュール

【新体制移行までの主なスケジュール（予定）】

年度	坂井地区	若狭地区
H24	<ul style="list-style-type: none"> ・準備委員会設置 ・総合産業高校の学科、カリキュラム等検討 ・施設・校舎の利用計画の検討 ・必要な施設・設備の整備の検討 ・教育目標の設定 ・学校案内等の作成 ・生徒、保護者、学校関係者等への周知 	<ul style="list-style-type: none"> ・準備委員会設置 ・若狭高校、総合産業高校の学科、カリキュラム等検討 ・施設・校舎の利用計画の検討 ・必要な施設・設備の整備の検討 ・教育目標の設定 ・学校案内等の作成 ・生徒、保護者、学校関係者等への周知 <ul style="list-style-type: none"> ・実習船のあり方の検討 ・施設・設備の整備、人員配置検討 ・新高校の校名等の検討 ・県立学校設置条例改正 ・生徒募集（推薦入学、一般入学者選抜）
H25	<ul style="list-style-type: none"> ・施設・設備の整備、人員配置検討 ・新高校の校名等の検討 ・県立学校設置条例改正 ・生徒募集（推薦入学、一般入学者選抜） 	<ul style="list-style-type: none"> ・総合産業高校開校、若狭高校海洋科学科（仮称）開科
H26	<ul style="list-style-type: none"> ・総合産業高校開校 	

※ 施設・設備の整備は、カリキュラムの内容や検討の進捗状況を踏まえ、計画的に実施。

【再編整備による新体制移行までのスケジュール】

区 分			24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
坂井地区	金津高校	普通科	----->				普通科 単独校
		商業科	----->		2、3年生 在籍 【募集停止】	3年生 在籍	
	丸岡高校	普通科	----->				普通科 単独校
	三国高校	普通科	----->				普通科 単独校
		家庭科	----->		2、3年生 在籍 【募集停止】	3年生 在籍	
	坂井農業高校	農業科	----->		2、3年生 在籍 【募集停止】	3年生 在籍	
	春江工業高校	工業科	----->		2、3年生 在籍 【募集停止】	3年生 在籍	
総合産業高校 (坂井農業高校)				開校 1年生在籍	1、2年生 在籍	1,2,3年生 在籍	
若狭地区	若狭高校	普通科	----->				----->
		文理 探究科	----->				----->
		商業科	----->	2、3年生 在籍 【募集停止】	3年生 在籍		
		水産科	----->	1年生在籍	1,2年生 在籍	1,2,3年生 在籍	
	小浜水産高校	水産科	----->	2、3年生 在籍 【募集停止】	3年生 在籍		
		専攻科	1、2年生 在籍	2年生 在籍 【募集停止】			
	若狭東高校	普通科	----->	2、3年生 在籍 【募集停止】	3年生 在籍		
		農業科	----->	2、3年生 在籍 【募集停止】	3年生 在籍		
		工業科	----->	2、3年生 在籍 【募集停止】	3年生 在籍		
総合産業高校 (若狭東高校)			開校 1年生在籍	1、2年生 在籍	1,2,3年生 在籍		